

【一般口演1】 第4席

俞穴主治症の研究

愛媛 山岡 傳一郎 山見 宝 村山 功 光藤 英彦

背部俞穴は使用頻度が高く、また病態認識においても重要な穴位である。そこで、その主治症を復元する課程の中で下記のような検討を行った。医心方を骨子とし、『甲乙経』と『外台秘要』を比較参照して明堂経（類成）を復元するという、愛媛東医研方式の明堂経復元方法を用いた。五臓の俞穴についての復元結果を示す。また、復元課程において、臨床的な理解を深める試みとして、大杼穴の単位条文化案を提示する。

〔肺俞〕肺寒熱呼吸不得臥欬上気嘔沫喘気相迫遂胃滿背臂急息難振慄脉鼓氣隔胃中有熱支滿不嗜食汗不出腰背強癩疾憎風時振寒不得言得寒益甚身熱狂走欲自殺目反妄見瘈瘲泣出死不知人〔心俞〕寒熱心痛循然與背相引而痛胃中痛邑邑不得息欬唾血多涎煩中善噦飲食不下欬嘔逆汗不出如瘡狀目眊眊痛淚出悲傷瘖瘡〔肝俞〕欬而兩脇滿急不得息不可反側擗脇下與臍相引筋急而痛反折目上視眩目中循然眉頭痛驚狂衄少腹滿目暈生白翳欬胃痛筋寒熱唾血短氣鼻酸筋痙痛急互引癩狂〔脾俞〕腹中氣脹引脊痛食飲多身羸瘦名日食晦黃痺善吹食不下脇下滿欲吐大腸轉氣按之如覆坏熱引胃痛脾氣寒四臍急煩不嗜食〔腎俞〕腰痛熱瘖寒熱食多身羸瘦兩脇難引痛心下臍痛心如懸下引臍少腹急痛熱面黑目眊喘欬少氣溺滑赤若頭痛之寒洞洩食不化骨寒熱便難

<大杼穴の単位条文化案>①頸項痛、不可以俛仰。（頸項部痛）②頭痛、振寒、瘈瘲。（上部へ症状領域の拡大）③氣實則脇滿、夾脊有井氣。（下部への症状領域の拡大）④熱汗不出、腰脊痛。（熱病における腰脊の痛み）⑤1) 瘖脊強互引、惡風、時振慄、喉痺、（内側への病状進行による咽喉部の熱症状）⑤2) 大氣滿、喘息、胸中鬱鬱。（内側への病状進行による呼吸器症状）⑥1) 身熱眊眊、項強、寒熱、僵仆不能久立、（熱症状に伴う中枢症状）⑥2) 煩滿、裏急、身不安席。（熱症状に伴う消化器症状）⑦癩疾不嘔沫、瘖瘡。（その他）

注：下線は医心方字句。